



題字：第56代 高麗大記

平成31年2月17日 発行：高麗神社



右下：平成29年9月20日 天皇皇后両陛下 御着時のご様子
 中央下：行幸啓記念碑裏からの写真 裏には御参拝時の詳細な記録が刻まれている。
 中央上：行幸啓記念碑 揮毫：大野松茂

「高麗神社の名誉と郷土の誇りと」

大野 松茂



①

高麗郡建郡千三百三年の新年、高麗神社のご神前に今年の平安繁栄を祈念いたしました。

二十年程前の大祭で、先代宮司 高麗澄雄先生が、高麗郡建郡千三百年を迎える尊さを喚起された事を契機に、市民参加の高麗郡建郡千三百年記念事業委員会が発足、更に一般社団法人 高麗一三〇〇へ発展して日高市と旧高麗郡域市町の協力で「高麗郡建郡千三百年記念式典」と関連事業が盛大に行われました。また県立歴史と民俗の博物館、國學院大學博物館、飯能市郷土館での「高麗郡」企画展も大盛況でありました。高麗若光の会によって続日本紀の「高麗王若光」「靈龜二年高麗郡建郡」の条を刻した碑が、高円宮妃久子殿下、馳文科大臣のご光臨を仰いで、神社境内に建立されました。渡来文化の研究増進を目指して「日本高麗浪漫学会」が発足、活動を展開しています。神社から始まった「渡来人の里フォーラム」も今年で十六回を迎えることになりました。先年には、共同通信社等から「地域再生大賞」を受賞して、大きな励みとなりました。かかる大きな成果も、偏に先代宮司の遺志を確り継承発展された現六十代宮司 高麗文康さまのご貢献によるものであります。

その上で、高麗神社始めこの地に、天皇皇后両陛下下行幸啓の名誉をいただきました。この大慶を神社・氏子会のご熱意で「行幸啓記念碑」の建立をなされました。その際、強いお薦めで畏れ多い事ですが、碑に揮毫の光栄をいただきました。内閣官房副長官時にしばしば拜謁と思し召しなど、忝ない感謝感激を心にこめて筆をとりました。

天皇皇后両陛下はご退位なされますが、両陛下のご健康とご長寿を皆さんと共に祈り申し上げる次第です。高麗神社さまのご隆昌こそ、郷土に限りない幸を末永くお守りいただけるものであります。崇敬の念を更に共に篤くして、郷土の誇りとして参りたいと存じます。

氏子会行事

桜祭 (やぐらまつり)

開催日・例年四月第一日曜日

主催・高麗神社 氏子会
 会場・高麗神社 前庭 (ヒガンザクラ周辺)
 内容・午前―餅つきや各部でのおもてなし／午後―獅子舞 奉納



高麗神社は桜の名所としても知られている。樹齢四〇〇年枝垂れ桜、樹齢三〇〇年彼岸桜、染井吉野の桜並木と三月下旬から四月上旬まで様々な桜の花が観賞できる。開花時の例年四月第一日曜日に氏子会主催で開催する行事が桜祭である。その始まりは、先代宮司 高麗澄雄の時代に遡る。かつて埼玉の地方には例祭日に、親類を家に招いて、もてなすという風習があった。男性は祭礼に出るが、婦人方は家で来客の応対に当たる為、例祭の獅子舞を見る機会が無かった。歴史ある獅子舞を見れるようにと、先代宮司と氏子達が話し合い桜祭を始めた。神様の下で、桜と獅子舞を婦人方にも見て楽しんでもらえるようにしたと云う。

②

氏子会 活動紹介

会長ご挨拶



高麗神社氏子会 会長 新 和郎

井上辰雄 前会長の後を引き継ぎ、平成三十年四月より氏子会々長に就任いたしました。高麗神社氏子会は、約二〇〇戸の会員皆様にお力添えを頂いております。年間には様々な神社での活動(詳細は第1号参照)を行っておりますが、中でも十月十九日の例祭は最も重要な活躍の場であります。祭の準備に始まり、受付・接待・付け祭などの運営、願獅子の奉賛活動、そして江戸時代より守り伝えて来た獅子舞奉納と多岐に渡ります。毎年、盛大に執り行えておりますことは、会員皆様のご理解とご協力があることと深く感謝しております。特に獅子舞は、これまでの努力が実り平成二八年に高円宮妃久子殿下の御前でお披露目し、直にお褒めのお言葉をいただきました。この成功の裏には井上前会長の姿があり、氏子を取りまとめ陰ながら準備に尽力していたことを覚えております。会長としてあるべき姿をここに学ばせていただきました。また、平成二九年には天皇皇后両陛下のご参拝があり、氏子はもとより多くの人が神社に集い、お迎えをいたしました。神社の縁起には若光様の徳を偲び、貴賤相集い御霊を守護神として祀ったと伝えられておりますが、これまでの一連の慶事には、昔も今も変わらず多くの人に慕われ、崇敬を集めていることを感じました。氏子会といたしましても、この良き流れを後世へと引き継いで行くため、一丸となって活動していく所存です。氏子の皆様には、引き続き高麗神社並びに氏子会運営にご高配を賜りたく、宜しくご協力のほどお願い申し上げます。

境内さんさん

御祭神 高麗王若光の母国 高句麗が存在した朝鮮半島には、「チャンスン・長丞」と言われる標柱を立てる風習がある。「將軍標」とも呼び、日本の道祖神にも似た習俗である。朝鮮半島では村や寺院の入口に立ち、魔除けや道標の役割を荷なっている。

高麗神社には、正面駐車場奥に参拝者をお迎えするように立てられている。將軍標は、在日本大韓国民団中央本部により奉納されたものだ。当初は、平成四年（92年）に木造により建立されたが、長年の風雨により腐食が進み壊れてしまっていた。その後、再興を望む声が多く寄せられた事から「日韓国交正常化四十周年」を記念して、平成十七年（05年）十月に改めて同本部により奉納されたものだ。地上部が高さ四メートル、地中内部が二メートル、直径七十センチ、重さ八トン（一本）韓国 全羅北道 益山市産出の巨大な花崗岩を使い、韓国の彫刻家 金壽浩氏が制作、韓国から日本へと海を渡り運ばれて来た。お披露目には駐日韓国大使を始め

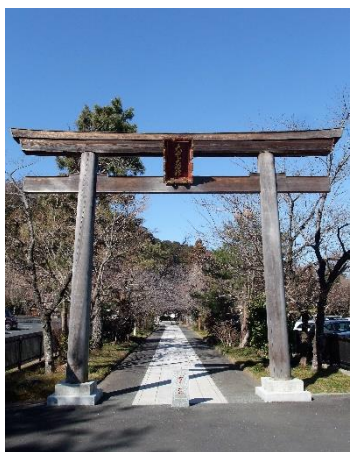
すいき歴史散歩

「高麗神社」ではなかった

—高麗神社の社号の変遷—

高麗神社 主任学芸員 横田 稔

高麗神社の一ノ鳥居（道路から最初に見える鳥居）には、写真1のような額が掲げられています。「大宮大明神（おおみやだいみょうじん）」と書かれています。これは、高麗神社の古称で、江戸時代末まで使用されていた社号です。



一ノ鳥居



写真1 寛政5年(1793)8月
野口雪江筆 大宮大明神額



高麗神社の將軍標
奉納：在日本大韓国民団中央本部



平成17年の除幕式後、
韓国の打楽器演奏で
賑わいを見せる会場
写真協力：文化新聞社

在日韓国人や日高市関係者など多くの人が集い、竣功祭と除幕式が盛大に執り行われた。今では、神社が朝鮮半島に縁があることを示すシンボルとして、多くの参拝者に親しまれている。

社号とは神社の称号のことで、現在の高麗神社では、「高麗神社」というのが唯一のもので。しかし、江戸時代までは全く異なっていました。

「高麗神社」という社号が最初に記録されているのは、いまから一五〇年前の明治二年（一八六九）九月のことです。

それ以前は、高麗明神（こまみょうじん）、高麗大宮明神（こまおおみやみょうじん）、高麗大宮大明神（こまおおみやだいみょうじん）、大宮大明神（おおみやだいみょうじん）、大宮（おおみや）、大宮社（おおみやしゃ）、高麗大宮（こまおおみや）、高麗大宮社（こまおおみやしゃ）、白鬚大明神（しらひげだいみょうじん）、白鬚大明神（しらひげだいみょうじん）などと様々な呼ばれ方をしていました。

「高麗氏系図（こましけいず）」には、創建当初の奈良時代に「高麗明神（こまみょうじん）」と称していたと記録されています。しかし、「明神」という称号は平安時代中頃から現れたものなので、奈良時代には別の称号があったと考えられます。

よきやま話

日高市内には、郷土の歴史を表すように將軍標が各所に立てられている。中でも西武線高麗駅前のものはひときわ大きく目立っている。高さ六メートル以上はあるだろうか、その將軍標は平成十六年九月に高麗地区の歴史・文化・観光の活性化を図るため西武鉄道(株)により再建されたものだ。建立には、高麗神社の前宮司であった五十代目当主の高麗澄雄が関わっており、「天下大將軍・地下女將軍」の文字を揮毫している。魔除けでもある為、顔の表情に怖さがあるが、どこも無く温もりの雰囲気を感じる。字の味わいか、駅を行き交う人を見守り続けてきたからだろうか…。日高市内の將軍標を訪ね歩き、それぞれの雰囲気を感じるのも面白いのではないだろうか。



西武線 高麗駅前の
將軍標 (チャンスン)

平安時代には「大宮（おおみや）」号を許されました。「大宮」とは神社に対する敬称の一つで、高麗郡内では高麗神社のみが「大宮」と称されていました。

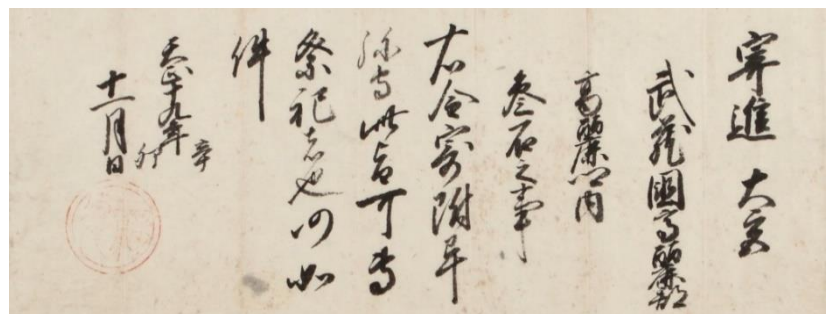


写真2 天正19年(1591)11月 徳川家康朱印状

現在でも、高麗神社の古称が記録された文化財が多数伝えられています。代表するものは写真2の徳川家康朱印状です。宛先に「大宮（おおみや）」と記されています。

「高麗神社」という社号が定着したのはわずか一四〇年前です。それまでに社号の変遷があったことは意外に思われることかもしれません。



【三笠宮殿下 第二鳥居前の芳名板にて】



【昭和37年植樹の杉は大木に成長】



【御参拝される三笠宮殿下】



【式典にて氏子による獅子舞を御観覧】



【高麗氏系図・大般若経を御見学】



【国重文 高麗家住宅内にて】



【第一鳥居前にてお出迎え】



【植樹された桃樹をご覧になられている様子】



【獅子舞をご覧になられた妃殿下】



【獅子舞披露を終えた氏子にお声をかけてくださる妃殿下】



平成二十八年は高麗郡建郡千三百年であった。この年当社は祝祭の霽困気に包まれていたが、中でも四月二十三日の「高麗王若光記念碑建立式典」は高円宮憲仁親王妃久子殿下の御台臨を仰ぎ、特別なものとなった。

当日午前十時三十分妃殿下は第一鳥居前で降車され、宮司先導により植樹に臨まれた。桃樹の苗木をしばらく愛おしげにご覧になられると根元に土をお掛けになり、水をお与えになった。植樹を終え、参道へ戻られた妃殿下は、真向かいの杉の標柱を目にとめられ、少し驚いた御様子で「三笠宮様」とつぶやき微笑まれた。続けて宮司に向けて「いつ御参拝なさったのですか？」と御質問があった。

三笠宮崇仁親王殿下は、大正十四年（1945）十二月二日大正天皇の第四皇男子としてお生まれになった。昭和天皇の末の弟君で、故高円宮憲仁親王殿下は三笠宮殿下の第三男子であった。殿下は古代オリエント史の研究者でもあった。当社へは昭和三十七年三月二十五日に参拝され、『武蔵国 高麗氏系図』など社宝をご見学、宮司高麗澄雄（当時）前宮司高麗明津からご説明を受けられた。古代オリエント文化はシルクロードなどを通じ東方へ伝播した。有名な正倉院御物の中には古代オリエントの遺風を伝える宝物も多い。アジア大陸からの渡来人たちは、文化伝達の担い手であり、殿下が当地に御興味を示されても不思議ではないだろう。因みに『武蔵国 高麗氏系図』は明治天皇、大正天皇の天覧に供したが、昭和天皇天覧の機会はなかった。三笠宮殿下に御実見いただいたことで「世代」としては切れ目なく御覧をいただいたことになる。

高円宮妃殿下は御参拝の後、社宝御見学、式典御臨席、御会食など間隙なく御予定をこなされた。御会食で御挨拶に立たれた妃殿下は当地の歴史について「これからの未来につながる善隣友好のモデルケースとして、多くの方々が興味を持ってくださるようになっております」とお話しになった。当地は極東の国、日本の「東国」に位置し、かつて渡来文化の終着駅であった。しかし、今からは「善隣友好」のメッセージを世界に届ける始発駅になりうる、高円宮妃殿下のお言葉を耳にしながら筆者はそんなふうを考えていた。



高麗王若光記念碑をご覧になられている様子。表には、若光様と高麗郡に関する記述裏には、善隣友好の証が記されている。高麗若光の会 建立

御代替わり『三種の神器について』

本年、四月三十日に天皇が皇太子に皇位（天皇の位）をお譲りになる「讓位」が行われます。五月一日には新たな天皇が「三種の神器」等を継承される「踐祚の儀」が執り行われ、御代替わりを迎えます。

三種の神器とは、八咫鏡、天叢雲劍（草薙劍）、八咫瓊曲玉のことをいいます。い歴代の天皇が継承されるものです。神話によると天照大御神が須佐之男命のたび重なる悪戯を嘆き、天石屋戸という洞窟に隠れてしまいます。すると、世界は暗闇になり秩序が乱れてしまいました。神々は知恵を借り、天石屋戸の前に櫛を立て、勾玉や鏡、紙垂をつけて、賑やかにお祭りを行いました。すると天照大御神は外の楽しい様子に誘われて岩屋戸からお出ましになられたのです。この時、祭に使われた鏡と勾玉こそが、八咫鏡と八咫瓊曲玉です。

この騒動の後、須佐之男命は天上の世界から追い出され、出雲国に辿りつきます。そこで暴れて災となっていた八岐之大蛇を退治し櫛名田姫を助けました。そして、大蛇の尾を割くと天叢雲劍が現れました。須佐之男命は、この劍を天照大御神へと献上したのです。こうして三種の神器が天照大御神のもとに集まりました。時が立ち、地上を統治していた大国主神との間で国譲りの交渉が成立し、天照大御神の天孫、邇邇芸命が地上へと降臨します。天照大御神は三種の神器を邇邇芸命に譲り渡され、この鏡を私だと思っただけの住まいする同じ御殿で祀りなさいと言われました。

そして三世代を経て、神武天皇が初代天皇として即位しました。時は進み、十代崇神 天皇の時代に疫病が蔓延するという事態が起こります。天皇は祈り続け神のお告げを賜った結果、皇居でお祀りしてきた八咫鏡を皇居の外、大和笠縫邑でお祀りすることになったのです。この時、鏡と劍の御分身として写しが造られ（古語拾遺より）、その御分身は皇居に奉安され、お祭りも継続されました。そして第十一代垂仁天皇の時代になり、笠縫邑にお祀りされていた八咫鏡は皇女・倭姫命によって遷され、伊勢の神宮でお祀りされるようになったのです。

なお、天叢雲劍は又の名を草薙劍といいますが、これは十二代景行天皇の時代に皇子・倭健命の手に渡され、これを携えて東国の平定に向かいました。その途中、相模国にて野火の難にあり、劍で草を薙ぎ払い、難を逃れた事に由縁があります。その後、劍は妻である宮簀媛によって名古屋の熱田神宮に奉安され、現在も同神社の御神体としてお祭りが続けられています。

現在、八咫鏡は伊勢神宮に、天叢雲劍は熱田神宮に、皇居宮中三殿の賢所に八咫鏡の御分身（写し）が祀られ、八咫瓊曲玉と劍の御分身は、劍璽と称され皇位継承の証として天皇のお住まいに奉安されています。御代替わりでは、古くから受け継がれてきた儀式が行われます。ぜひ、この機会に歴史や文化に触れ知識を深めて、新しい時代への幕開けを皆でお祝いしましょう。

祭事案内

ご参列・ご参加ください

各行事の詳細は神社ホームページを参照ください。メールマガジンでも情報通知しています。ご登録ください。

○桜花祭
桜の開花頃（土曜もしくは日曜）
※年ごとに日取りが違います。
16:00～



高麗神社の大神様と桜の神様 木花咲耶姫に夜桜会開催を奉告し、日々の御守りに感謝を捧げます。

○若光祭
5月中旬頃 午前中



高麗神社・熊野神社・稲野辺神社
3社合同で行う子ども神輿渡御の祭

○行幸啓記念神恩感謝祭
9月23日 9:00～



平成29年9月20日
天皇皇后両陛下御参拝の慶事を記念し感謝を捧げる祭典

○新嘗祭
11月23日 9:00～



その年の五穀豊穡を神々へ奉告し感謝する祭事です。

○高麗郡建郡記念神恩感謝祭
5月16日 9:00～



先人達がこの土地に築き上げてきた大切な歴史や文化に感謝を表し、毎年5月16日に祝祭を行います。

○夏越の大祓式
6月下旬 午後
(土曜もしくは日曜)



半年間に知らず知らず身についた罪穢れを祓い清める祭事です。

○観月祭
旧暦8月15日
18:30～ 要事前申込み



月下の恵に、神前を通じて感謝を捧げます。続いて奉納演奏が行われ、美しい音色を神々へ奉ります。

○年越の大祓式
12月30日 16:00～



半年間に知らず知らず身についた罪穢れを祓い清める祭事です。

<携帯電話用メルマガ登録の方はこちら>

① 空メールを送信する

km-komajinja_cellphone@dbc.webcas.net

(このアドレスのブロック解除を:press@komajinja.or.jp)

② 登録サイトで必要事項入力



<スマホ用メルマガ登録の方はこちら>

① 空メールを送信する

km-komajinja1300@dbc.webcas.net

(このアドレスのブロック解除を:press@komajinja.or.jp)

② 登録サイトで必要事項入力



祈願随時受付 毎日8:30～17:00 (12/31は、14:00まで)

※ご予約の必要はありません。

初宮詣・七五三・ランドセルのお祓い(3月上旬～4月上旬)
各種人生儀礼・商売繁昌・厄除け・方位除け・車お祓い



編集後記

お陰を持ちまして、第2号を発刊することができました。記事制作にあたりご協力をいただきました皆様に厚く感謝申し上げます。「若き光」は、高麗神社氏子を中心に近隣の皆様に、より深く神社の事を知っていただければと刊行しております。記事には社内だけでなく、地域の身近な歴史についても取り上げてまいります。新たに近くに越して来られた方などにも、郷土の歴史を紹介する際、説明の手立てとして役立ただければ幸いです。ご協力をお願いします。担当・保々

発行・高麗神社々務所
〒350-1243
埼玉県日高市新堀833
TEL 042-989-1403
FAX 042-989-2794